

平成24年度 『四季の郷』 事業報告書

1. 生活支援方針・課題について

(1) 四季の郷の支援目標

以下4点の社会福祉法人昴会の基本理念に沿って、『生き生きとした暮らしの実現』を四季の郷の支援目標に掲げ支援を行ってきた。

○利用者の権利擁護の視点を忘れず、人間としての尊厳を大切にする。

○ノーマライゼーションの理念に則り、「普通の生活」にできる限り近づけるように生活の中に可能な限りの要素を取り入れる。

○利用者個々の能力障害・社会的不利を緩和するために、発達段階に応じた支援を進める。

○信頼的対人関係を作り上げながら、利用者個々の自発性を尊重する。

(2) 今年度の取り組みについて

昨年度に引き続き、「サービス向上委員会」「危機管理・防災対策委員会」「サービス向上委員会」を毎月開催した。支援の視点の大きな柱となる「人権擁護」や「エンパワメント」、「安全な暮らし」「支援の質の向上」について、定期的な検討や具体的な対策が進められた。

これらの委員会活動については、施設全体で課題や対策を共有する仕組みづくりがより整ったこと、加えて他の様々な会議や取り組みとをより意識的に連動させたことで、支援目的や目標に向けて大きな推進力となった。

一方で、8月より夜間の職員体制が2名から3名に移行したことに伴い、日中の職員数確保の問題が挙がり、行事などを中止する等の対応をとった。また、引き続き、新人職員の比率が高まったこと、四季の郷利用者の障がい程度の重度化等で、支援の量や質に影響を与えてしまったことは今後の課題点であり、支援の点検や見直しを図る時期だと認識している。

2. 生活支援のまとめ

(1) はじめに

今年度も『生き生きとした暮らしの実現』の視点を大きな柱として掲げ、その人らしさが発揮できる生活を目指してきた。様々な支援を通して利用者さんの安心・充実した暮らしをサポートしてきた一方で、加齢に伴う心身機能の低下による健康面への配慮や転倒・誤嚥などの事故が、これまで以上に顕著となってきている現状があった。これらについては、大いに悩みながら取り組んできたのが正直な思いであり、会議等での検討、職員間の連携、地道な取り組みなど、現状として最善の支援を積み重ねながら進めてきた。

さらには、入所利用者やショート利用者の状態とニーズが多様化、高齢化、重度化、個別化している実態があり、様々な場面で支援の工夫や見守り・介助機会が増えてきている。課題であった生活の質と安全・安心を両立していく支援を模索する中で、夜間帯の見守りがそれまでの2名体制では困難になってきたため、3名体制に見直しも行った。

今後も、その時々状況に柔軟に対応しながら、「生き生きとした暮らし」の視点を忘れずに、施設全体で支えていく仕組みづくりや職員全体で共有化を図っていく雰囲気づくりに努めたい。

(2) 施設支援計画

今年度も4月中に利用者・保護者とケース担当者の三者面談を実施してきた。また、10月にも再度利用者・保護者と支援目標についての確認を行い、利用者本位の支援の実施を心掛けてきた。

また、記録ソフト「福祉の森」を使ったデータ入力形式に切り替えを行い約2年半が経過した。データ管理や支援の振り返り、申し送り用の記録書・会議資料等の作成に大きな成果が出ている。今後も、記録のための記録ではなく、支援に直結していく記録となるよう活用していくことを意識していきたい。

(3) 生活支援体制

①<支援職員体制>

今年度もサービス管理責任者を中心に、利用者の支援計画策定や看護師、栄養士を交えたケース会議の実施及びモニタリング・評価、日常的支援の確認を行った。また、支援員の棟別配置を元にして、日常生活支援（ADL支援）には男女別同性介助・援助体制を組み、授業班・クラブ活動支援は、支援員を活動グループ別に配置した体制で支援にあたった。

間接的な支援分野である、設備備品の修理や館内外の掃除・美化活動、行事等やボランティアとの関わりの段取り面、保護者会等の主に狭義・広義での生活環境の整備面については、職員が係りを分担して活動を行った。

②<会議>

今年度は、以下の会議を実施してきた。

●全体会議

前期1回開催。後期については会議日程が組めず中止とした。全職員出席。施設全般の方向性の確認や行政関連内容の報告、支援面への指示等の確認や棟・医務・栄養からの報告・内容確認。

●男女別ケア会議

月1回開催。サービス管理責任者・支援員・看護師・栄養士出席。ケース検討などの支援に関わる確認・検討を行った。

●課業班調整会議

月1回開催。課業活動担当主任・各課業班リーダー出席。各課業班活動の課題検討、活動調整を行った。

●課業班会議

隔月1回開催。課業班担当支援員出席。課業支援の検討を行った。

●給食会議

月1回開催。施設長・事務長・副施設長又はサービス管理責任者・看護師・栄養士・厨房職員が出席。食事の設備・内容、利用者への対応等に関する調整等を行った。

●主任者会議

月1回開催。サービス管理責任者・主任支援員が出席。支援全般の課題等の具体的な検討・調整、事故・ひやりはっと事例の分析・対応策の検討等を行った。

●サービス向上委員会

月1回開催。サービス管理責任者・主任・委員が主席。「職員行動指針」の遵守に向けた取り組みの検討を行った。

●危機管理・防災対策委員会

月1回開催。サービス管理責任者・主任・委員が主席。リスク対策、防災対策に関する取り組みの検討を行った。

●研修委員会

研修月を除き月1回開催。サービス管理責任者、主任、委員が主席。研修企画や研修方法に関する取り組みの検討を行った

(4) 健康管理

加齢による心身の機能低下も年々目立ち始めているため、体調の変化の早期発見と状態に応じて適切に判断し対応していくことに努力してきた。また、比較的若い利用者であっても、持病を抱えている利用者も見られるため、日常の状態観察に注意した。特に、会議等での医療・健康面の報告と日常生活の姿・様子の確認、情報の共有化、疾病予防に向けた環境調整面への提案、交代勤務下の医療面の確実な申し送り等に対して重点を置いてきた。

今年度については、特にインフルエンザやノロウィルスが全国的に大流行したが、冬場の地道な対応が功を奏し、四季の郷においては幸いにも流行せずに済んだ。

また、春と秋の年2回の一斉健康診断を実施し、異常が発見された利用者については、速やかに精密検査や継続治療を行った。一斉健康診断とは別に、月2回、嘱託医による定期受診を実施した。

歯科の予防にも取り組んだ。年1回歯科医による歯科検診を実施し、検診結果を踏まえて、歯科を受診して予防的治療を実施した。

(5) 給食管理

①<はじめに>

- ・健康管理に関しては、医療・支援側との連絡を密にしつつ、管理栄養士の管理の元で各個人に合った食事提供を行っている。
- ・特別食の内容は糖尿病治療食やダイエット食・嚥下食等で食欲不振気味であったり偏食傾向の強い利用者には代替食の提供や調理法の工夫をする事により苦手な食材でも摂取できるように努めている。特に近年

は嚥下力が低下しつつある利用者が増え、ペースト食や軟菜食・極刻み食等各個人の嚥下力に合わせた食事の提供が必須である。

- ・また、栄養ケアマネジメントの導入により栄養士だけではなく他職種との連絡を密にしながらのトータルの栄養ケアを行っている。定期的なスクリーニングや栄養ケア計画の見直しを行う事により、よりきめ細やかな栄養サポートを提供できるようになった。
- ・献立作成時は旬の食材を意識し、食事からも季節を感じてもらえるよう心がけた。
- ・震災時への対応として、7日分の非常食と5日分の飲料水を確保し、防災倉庫に備蓄している。昨年度末に発生した東日本大震災の影響で、パンや冷凍食品など一部の食材が納入困難になった事もあり、今後より一層の非常時対応を行っていききたい。
- ・施設利用者にとって、食事は一日の楽しみ大きな部分を占めていると思うので、今後も栄養管理・衛生管理をしっかりと行いつつ、利用者に喜んでもらえるような食事を提供していききたい。

②<総括>

1) 食事管理について

- ・栄養スクリーニングを利用者全員に行い、リスクレベルに応じての栄養アセスメントを作成する。
- ・そのアセスメントに基づいて栄養ケア計画書を作成し、さらに高リスク者には他の関連職種と連携してモニタリングも行う。
- ・定期的なカンファレンスを開催し、計画変更等には柔軟に対応する。
- ・利用者・家族への説明も実施していく。
- ・毎月体重測定を行ってリスクレベルは常に把握し、利用者の年齢と生活活動強度から栄養所要量を算出し、体格・治療食など考慮にいれ各個人の提供栄養量を決定する。
- ・偏食傾向の強い利用者へは微量栄養素補助飲料などを使用して、栄養の偏りがないように配慮する。また、体調不良や精神面などから食欲不振が見られる利用者には調理法の変更や好物の提供を行い、食事面からも精神面の安定が得られるようにしている。
- ・嚥下食提供者は一度に摂取できる量が限られてしまう為、高カロリー食品等を使いながら、必要エネルギー量を確保するように努めている。
- ・利用者の高齢化が年々進み、体力の衰えや租借力の低下などが見受けられ、また言葉で自分の希望を伝えることの出来ない利用者もいる。そのような状況の中で食事を楽しんでいただくためには、他職種との連携や利用者の状態把握、食事摂取状況の確認を細やかに行っていく必要があると感じている。

2013/03 現在

盛り付け量	主食	カロリー	男	女	合計
極々小	60g	1450kcal	0	3	3
極小	100g	1550kcal	1	5	6
小	120g	1650kcal	4	17	21
中	150g	1750kcal	5	0	5
大	200g	1950kcal	8	0	8
特大	250g	2150kcal	5	1	6
超特大	300g	2350kcal	1	0	1
合計			24	26	50

種類		男	女	合計
特別食	ダイエット食	1	7	8
	コンニャクライス	0	3	3
	揚げ物止め	0	5	5
	低脂肪牛乳	1	0	1
	糖尿病食	1	0	1
	心臓病対応食 (塩分制限)	1	0	1
	極刻み食	1	3	3
刻み食	7	9	16	
一口大	3	0	3	

	嚙下ミキサー食	0	1	1
栄養補助食品	微量栄養素補助飲料	0	2	2
	高カロリー食品	1	2	3

2) 行事食について

行事の際には各行事に合った特別食を提供している。利用者の要望をとり入れ、旬の食材を使った季節感のある献立作成を心がけている。

行事名	実施月日	メニュー
端午の節句	5月5日	こどもの日ランチ・スープ・エビフライ・コーヒーゼリー
七夕	7月7日	七夕そうめん・澄し汁・フライミックス・ゼリー
土曜の丑	7月27日	うな井・澄し汁・千草和え・スイカ
夏祭り	8月4日	おにぎり・豚汁・イカリング・スイカ
秋のお彼岸	9月20日	おはぎ・みそ汁・さんま塩焼き・菜果なます
クリスマス会	12月23日 バイキング	主食：ピザ・バターロール・ジャムパン・あんぱん・クリームパン・クロワッサン 副食：イカリング・ミニドッグ・星のコロッケ・ハートコロッケ・チキンナゲット・肉まん・グラタン・オムレツ・ポムポムポテト・スパゲティソテー その他：コーンスープ・クリスマスゼリー・シャンメリー おやつ：フレーズショート・二つの栗のモンブラン・ガナッシュトルテ
正月	1月1日～3日	お雑煮・おせち料理（かまぼこ・お煮しめ・数の子・栗金団・黒豆・田作り・伊達巻・なます）
新年会	1月7日	七草粥・餅・鰯の照焼・たくあん・豚汁・みかん
節分	2月3日	太巻き・澄し汁・松風焼き・ゼリー
雛祭り	3月3日	散らし寿司・澄し汁・魚フライタルタルソース・菱餅ゼリー
春のお彼岸	3月21日	牡丹餅・魚の西京焼き・野菜の甘酢漬け・苺・澄し汁
寿司キャラバン	3月29日	握り寿司（寿司職人によるデモンストラーションあり）

3) 衛生管理について

近年猛威をふるっているノロウイルス対策として、対応マニュアルの整備・汚物処理ワゴンの導入・職員への研修・手洗い時のふき取りに使用するペーパータオル導入などを行ってきた。

テレビなどでの報道もあり、職員の衛生管理意識は年々高まってきているように感じられる。

今後も定期的にマニュアルの見直し・職員への研修を行い、職員間の情報伝達を密にして食中毒予防に努めていきたい。

(6) 課業班活動支援

作業生産・経済活動グループ【呼称：創工庵】

<活動方針>

- 「作業」を題材としたプログラムの提供を行い、仕事としての意識付けを行っていくこと。
- 社会参加を意識した取り組みを行い、その機会を提供していくこと。
- 利用者の身体状況に応じて適度な歩行機会を設けていくこと。

<活動内容>

- 室内作業…割り箸作業（株藤本商会） /利用者 7名
- 室内作業…包帯作業（株遠州運輸） /利用者 10名
- 屋外作業…空き缶作業 /利用者 5名
- グループ活動…場所・内容等は別表にて報告

<総括>

- 割り箸作業

今年度の前半は職員の人数配置の関係や勤務体制の変更等の理由から十分な活動枠が確保できず、月によって作業回数にバラつきが見られた。しかし、後半になると勤務体制も落ち着き活動回数を増やすことができた。一度の作業内容としてはスムーズに行えることができた。納品は2～3ヵ月のペースで実施した。作業利用者は自分の作業内容を理解している為、作業自体は円滑に進めることができています。作業に対して誇りを持って取り組んでいる様子も見られ、意欲向上に繋がっている様子が窺える。また、座席の固定化等、周囲の環境を整えることで集中して作業に取り組めるよう配慮を行った。1月にはグループ活動としてとんかつ屋「せんざん」へ行き、自分たちが作業として取り組んでいる割り箸が製品として使用されている場面を見ることができた。また、実際に使用して食事をする事で、作業に対する意欲をより高めることができたと感じている。今後も十分な活動枠の確保と充実した作業時間の提供に努めていきたい。

◆平成24年度『割り箸作業』活動実績

活動回数 73回

活動場所 四季の郷会議室

作業収益金 11,500円(納品回数:5回、単価/0.15円)

(前年度比・活動回数:67回、作業収益金:11,250円、納品回数:4回)

(2) 包帯作業

全体的に作業自体はスムーズに行うことができています。しかし今年度は作業回数の減少・シャワー浴の関係により納品が月に1回ペースとなってしまった。また、作業内容が少し変更になったが、問題なく順調に作業に取り組む事が出来た。

11月13日より包帯作業がしばらく休業となり、歩行活動を行っている。歩行活動では特に問題はなく行う事が出来ている。また、今年度中に他の仕事を探した結果、手袋の話をいただく事ができ現在調整を行っている所である。

包帯作業では自分の役割を理解している部分が多く、片付け・準備等を率先して行っている。流れ作業、座席を固定化していることも作業への意欲を高め、作業を円滑に進めることができていますと感じている。また、衛生面にも配慮し、作業前のアルコール消毒や毎週金曜日の作業後に清掃、手袋の着用を実施している。

◆平成24年度『包帯作業』活動実績

活動回数 131回

活動場所 四季の郷作業棟(包帯作業)・四季の郷周辺(散歩)

作業収益金 23,400円(納品回数:12回、1回/1,800円、単価/90円)

(前年度比・活動回数:207回、作業収益金:41,400円、納品回数:21回)

(3) 空き缶作業

空き缶の在庫数に応じて作業の内容が変動してしまう為、一定のクオリティーで提供することが出来ず、集中した作業の継続が取れなくなってきたのも現状ですが、以前よりも一人当たりの缶の潰す数量も減ってきているので作業場所の環境の整備や利用者の適応性にまた目を向けていく必要があると思う。他に一部の利用者に関してなかなか課業に乗る事が出来ないということからケア会議等で話し合い改善案を練り実施してきた結果、今は、きちんと行う事が出来るようにまできたのでそこは評価に値すると思います。それでもまだ、若干の不具合も見られている為、今後も継続で対応していきたいと思えます。歩行活動に関しても歩行ルートの変更は利用者の情緒安定に繋がらない為、同一ルートで実施したり、ペアを組む利用者を考慮しながら安全な歩行を行う事ができていた。この点に関しては継続実施していきたいと思えます。

◆平成24年度『空き缶作業』活動実績

活動回数 185回

活動場所 四季の郷空き缶倉庫前、白山神社、雨天:ドライブ活動

作業収益金 18,821円(※単価変動あり)

(前年度比・活動回数:201回、作業収益金:27,415円)

(4) グループ活動

活動内容について以下の通り。

実施日	活動場所	参加人数		経費
		利用者	職員	
7/19	新東名高速SA巡り	3	2	8,626円

	鞍ヶ池公園			〈中止〉
	掛川花鳥園			〈中止〉
12/4	鞍ヶ池公園	5	2	7,991 円
1/16	とんかつ「せんざん」、カラオケ	10	5	19,895 円
			合計 3 回	経費合計：36,512 円

軽作業・健康活動グループ（呼称：あんだんて）

<活動方針>

作業活動に取り組みながらも、身体・運動機能の低下予防（健康保持）の必要性やニーズが高まっている。そのため、今年度は以下のような活動方針を立て実施した。

- 1) 作業活動を通じて活動・意欲を高めること。
- 2) 利用者個々のニーズや身体状況に合わせた活動に取り組み、身体・運動機能の低下予防を図ること。

<活動内容>

- 1) フック作業・・・フックのはめ込み作業／利用者 15 名・その他利用者
- 2) 健康②・・・四季の郷周辺の歩行活動／利用者 4 名
- 3) キャンドル作業・・・自主製品キャンドル製作・販売、歩行活動／利用者 8 名
- 4) 農作業・・・野菜・果樹の栽培、歩行活動／利用者 5 名
- 5) 洗濯たたみ作業・・・利用者の衣類整理・たたみ／利用者 1 名
- 6) グループ外出・・・あんだんて所属利用者実施

<総括>

(1) フック作業

あんだんて所属メンバーが中心となり作業を進めてきたが、それ以外にも生活介護利用者やショートステイ利用者も参加している。

- ・活動総実施回数： 83 回
- ・納品： 7 回【5/1、6/12、7/17、9/12、11/28、1/17、3/6】
- ・作業総収益： 14,400 円

業者に在庫がなかった 4 月を除き、毎月コンスタントに活動の機会を持つ事が出来た。納期は概ね 1 ヶ月毎にあり、今年度は計 7 回の納品を行った。納品時には参加利用者の充実した表情が見られた。また、業者との確認事項（＝納品の毎に【四季の郷】在庫を空にする）を遵守し、継続して材料を供給して頂ける様に対応してきた。

あんだんて所属メンバーが中心となり作業を進めてきたが、それ以外にも生活介護利用者や SS 利用者、他課業班所属の利用者メンバーの参加があり、多くの利用者が参加可能な活動となっていた。また、雨天などで屋外の活動が制限される時や、季節的に健康面で配慮が必要な時期（＝猛暑／極寒期）など、柔軟に対応できる貴重な活動になっていた。

障害特性に合わせた個別ツール、説明書やマスクなどの作業補助具の活用等があり、必要に応じて利用個別特性に合わせた対応を実施してきた。そうする事で作業に集中出来たり、ツールを通して自立して作業に取り組む様に支援する事ができ、充実した表情を見せてくれる利用者もおり、活動意欲の向上に繋がっている様子があった。

(2) 健康②

- ・活動総実施回数 151 回

1 年間を通して、楽しく歩行を行う事が出来ていた。暑さや体力的に疲れの出る利用者もいたが、暑さ・寒さに関係なく楽しく歩行する事が出来ていた。

参加メンバーには、体重の減量が出来ている利用者もおり、健康面でも良い影響が出ている。また、情緒面で配慮が必要な利用者は職員と手を繋ぎ、一緒に歩行するなどの対応を行ってきた。歩行不安定・体調不良の利用者がいる場合は、歩行距離の調整やドライブ散歩に変更して実施した。

今後は、参加メンバーのニーズに合わせた活動内容・体調面・情緒面に配慮した活動を行っていく。

(3) キャンドル作業

・活動総実施回数 77回

今年度は、年度途中で所属メンバーの変更等があったが、利用者個々の特性に合わせた作業内容を提供し、利用者が自分のペースで作業に取り組みめるよう実施してきた。天候や気温、活動時間にゆとりのある際には歩行活動も実施し、気分転換・運動機会の場を提供した。また、販売機会も多く、利用者自らが外部へ出向き、キャンドル販売を行った。自分達の作ったキャンドルを販売することで、活動意欲・達成感を味わうことができたと感じている。

今後も個々に合わせた作業内容を提供し、販売活動等に参加することで、作業意欲の向上に努めると共に、定期的な歩行活動を設け、気分転換と健康維持にも努めていきたい。

平成24年度 キャンドル作業販売収益		
月日	販売内容	収益
10/17	浜松市 友愛広場	4,600円
11/11	支援センターわかぎ 秋祭り	1,820円
11/18	西区ふれあい広場	7,850円
11/23	四季の郷・秋祭り	6,450円
12/23	四季の郷・クリスマス会	3,900円
1月下旬	他団体依頼	10,000円
		総収益34,620円

(4) 農作業

・活動総実施回数 65回

今年度、農作業班の活動は、野菜栽培、畑の整備、歩行活動の他に活動場所である畑周辺の環境整備に取り組んできた。

今年度は二十日大根、スナップエンドウ、キュウリ、柿、玉葱の収穫をすることが出来たが、成長不良のため不作に終わった作物も多く、次年度へ向けては計画的な作業プランを立て、プランター等も使用して、家庭菜園のように作物の栽培・管理を少しでも容易にして活動を行ってきたい。

(5) 洗濯たみ作業

・活動総実施回数】 141回

作業中の室温調整に配慮し、利用者の要望により音楽を流したり、会話を交えながら作業に取り組めるよう、環境作りに努めた。また、洗濯物の量を予め調整しておくことで、利用者の負担にならないよう配慮を行った。作業利用者の調子が今一つの際には無理な誘い掛けは控え、利用者本人の意思を尊重する声掛けを心掛けた。

(6) グループ活動

各活動グループに分かれて、メンバーの好み・要望に沿って行き先を決め、利用者主体となり楽しめる活動を企画してきた。

実施日	活動場所	利用者	職員	経費
6/29	生命の海科学館・ラグーナ蒲郡	4	2	6,750円
8月	中止			
2/20	伊佐美公民館で料理作り	5	2	8,155円
3/21	掛川花鳥園・浜松城公園	4	2	13,040円
			合計3回	経費合計：27,945円

機能・健康・体力維持、リハビリ活動、体験活動グループ (チャキチャキ)

<支援目標>

- 1) メンバー1人ひとりに合わせた活動を行っていくこと。
- 2) メンバー個々のニーズ、個性に合わせたプログラムを通じて、機能・健康・体力維持・リハビリを目指すこ

と。

- 3) 様々な体験活動（地域との交流・社会参加）を通じて、生活の楽しみを増やし生活の幅を広げること。
 4) 活動を通じて、心身の安定を図ること。

<活動内容>

1) 機能維持プログラム

活動時間	13:40～15:30						
活動メンバー	4名						
担当職員	職員1名						
晴天時の活動	屋外歩行（公用車で花川運動公園、墓地公園まで行き、公園内を歩行。）						
雨天時の活動	ドライブ、店内歩行（カインズモール他）						
実績報告	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	15回	15回	15回	15回	12回	11回	12回
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	12回	10回	11回	11回	15回	154回	

※雨天時ドライブを含む。

2) 健康維持①プログラム

活動時間	10:00～11:30						
活動メンバー	8名						
担当職員	職員1名						
晴天時の活動	2班に分かれて、ヴィラ東山苑付近までの往復歩行						
雨天時の活動	ドライブ						
実績報告	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	5回	10回	7回	11回	10回	2回	8回
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	5回	8回	11回	13回	13回	103回	

3) 体力維持プログラム

活動時間	10:00～11:30						
活動メンバー	5名						
担当職員	職員1名						
晴天時の活動	公園や浜名湖周遊の自転車道などを利用して、散歩や運動を自由に行う。						
雨天時の活動	ドライブ						
実績報告	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	4回	9回	8回	12回	7回	7回	10回
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	10回	8回	7回	10回	10回	102回	

4) リハビリプログラム（1月14日～イキイキ）

活動時間	13:40～15:30						
活動メンバー	5名						
担当職員	職員1名						
	新生活棟 リハビリ	足浴マッサージ、ルームランナー、歩行 レクリエーション(裁縫、編み物、絵、花の水やり、音楽鑑賞等)					
実績報告	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	17回	21回	19回	10回	13回	6回	2回
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	4回	1回	18回	20回	18回	193回	

5) 体験活動グループ

活動時間	13:40～15:30						
------	-------------	--	--	--	--	--	--

活動メンバー	選出						
担当職員	職員1名（農作業担当）						
	農作業スペース	農作業・農作業見学 他					
実績報告	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0回	0回	0回	0回	0回	0回	

<総括>

それぞれの活動班に分かれ、活動をコンスタントに実施することが出来た。健康①では、メンバーが増えたことにより、2班に分かれて歩行を実施した。利用者個々のニーズに合わせたプログラム内容を実施することが出来た。7月に課業活動が不安定になり職員も困惑している様子があったが、従来通りの活動に戻している。今年度からイキイキ活動も1月からスタートし順調に実施されている。

機能活動

体調不良、帰省を除いて概ね各自参加できる。楽しく活動に参加している。皆単独歩行できる。がんばって歩く姿が見られるが、利用者の体力低下が感じられる。職員と手を繋いで歩行する利用者の姿も見られる。歩くこと以上に外に出かけることが楽しみになっているように感じられる。

健康①活動

年間を通して課業の新体制の試行・シャワー浴の為活動の回数が少ない様子が見られた。活動がある時は、週2～3回のペースで活動が確保できてた反面ないときは1週間ない事もあり、その中でも1カ月に2回しかない月があった。回数が減っている事で冬場になり体重が増加している利用者も見られる。参加している際、各利用者は比較的落ち着いて参加できている状況になっている。

体力活動

活動場所は偏ることなくさまざまな場所に行く事ができる。けがはなく活動を行う上での問題も起こっていない。全体的に表情よく参加することができており楽しむ事ができている様子。活動の間隔がまばらで長い時は1週間以上活動に間が空くこともあった。利用者の体力維持や気分転換の良い機会となっている。美味しいめぐりのご褒美を定期的に行えず、利用者のモチベーション向上に繋がれなかった。

リハビリ（イキイキを含む）活動

リハビリについては個々の状態に合わせプログラムを実施、心の安定や機能維持に繋がるよう取り組んできた。天気が良く温かい日には中庭や施設外周を散歩したり、施設近くの公園まで行きお花を見たりする等、季節に応じた活動もおこなった。

※イキイキ活動（1月12日よりスタート）

全体で行えるレクリエーションとして、リトミックを行った。懐かしい曲や過去に聞いたことがあると思われる曲、音楽クラブでよく歌う曲をかけ、リズム遊びをしたり楽器を使って演奏を行った。（4月～「輪投げ」を実施）

体験活動グループ

利用者のニーズに合った活動を中心に、その中で支援員間の学びや気づきが得られる体制作りという意向で体験活動グループを今年度より新たに作ってきた。しかし、職員人数確保の難しさから実施することが出来なかった。構想としては、農作業活動スペースを利用し、楽しみが持てる活動の提供をしていく予定であったが、実施していくうえでの話し合いの場をしっかりと設けることが出来ず、結局未実施となってしまった。来年度は実施しない計画にしている。

<グループ活動>

グループ活動では、全6回の実施予定ではあったが、職員人数の減少により2回のグループ活動を中止

している。活動内容としては、主に歩行活動を行いながら、店内での昼食を楽しむものとなった。2回分の中止により、経費が多く余っていたことより、3月のチャキチャキお疲れ様会は雄踏市民文化会館の一部を利用しオードブルなどを持ち込み利用者の好む食事を豪勢に用意することが出来た。普段の活動とは違い、野外での昼食をとることができ、利用者個々に楽しむことが出来たように思う。

【グループ活動一覧および体力班全国うまいものめぐり経費】

実施日	行き先・内容	参加者人数		経 費
		利用者	職員	
5/29 (火)	たこまん工場見学 加茂花	5名	2名	10,676円
7/12 (木)	料理作り、伊佐見公民館	6名	2名	8,694円
11/30 (金)	リニア鉄道館、名古屋港水族館	4名	2名	9,650円+ (美味しいものめぐり) 2,520円
3/14 (木)	浜北地域活動研修センター、美茵中央公園	19名	7名	33,593円 +美味しいものめぐり1,510円

※職員については1名につき、1,000円

※美味しいものめぐりは、2回分を月毎にまとめて載せている。

(7) クラブ活動支援

運動クラブ

<今年度の支援目標>

- 1) 野外などで身体を動かし、体力づくり、健康維持を図る。
- 2) 季節に応じたスポーツ活動を行うこと。

<今年度の活動成果・実績> 四季の郷周辺散策 ドライブ散歩 (公園)

活動回数

4月：4回	5月：2回	6月：2回	7月：1回	8月：2回	9月：2回
10月：1回	11月：1回	12月：0回	1月：2回	2月：1回	3月：6回
					合計：24回

<総括>

運動クラブは、体力作り、健康維持を図る為に施設周辺を散策したり、時には車を利用しての公園散策を実施した。自発的参加が難しいメンバーに参加を促してきたので、参加メンバーの情緒の安定にもつながったのではないかと思われる。

今年度は歩行活動と競技練習のみに重点を置いた為、季節に応じたスポーツ活動を実施することができなかったことが反省として挙げられる。来年度はボール遊びやバドミントン等様々な活動を取り入れていきたい。

競技クラブ

<今年度の支援目標>

- 1) 各種競技大会に参加し、日頃の練習成果を発揮するとともに、他の施設利用者との交流を図る。

<今年度の活動成果・実績>

- ・4月園内フライングディスク競技会 (男性1、女性3名参加) ※順位なし。
- ・9月わかふじスポーツ大会参加 (フライングディスク競技) (男性1名、女性3名参加 (アキュラシー) 銀メダル (2位) 1名 銅メダル (3位) 2名
- ・10月オレンジマラソン大会 (男性2名、女性2名参加) ※順位なし。大会記録のみ。
- ・園内でのフライングディスク競技練習
- ・園外でのオレンジマラソン大会練習

<総括>

競技クラブでは、大会に向けての練習を実施し、わかふじスポーツ大会でのフライングディスク競技で好成績を収めることができた。また、オレンジマラソン大会では最後まで諦めることなく、全員が完走することができ、本人達なりの健闘を見せていた。競技大会に参加した際、競技が終わった後に他施設の利用者の方とお互いの頑張りを讃えあう姿が見られた。競技の日程を間違え園内競技に切り替えた事は反省点として挙げられる。

音楽クラブ

<活動方針>

- 1) 音楽を楽しむ事により、情緒の安定を図ること。
- 2) 音楽を通して、楽しみを発見すること。
- 3) 音楽を通して、協調性を養うこと。

<活動内容>

- 季節にあった歌を歌ったり、鈴・タンバリン・太鼓などの簡単な楽器を使い、合奏する。
- 体操や手遊び等を行い、身体全体を使って表現する。
- 敬老の日に高齢者施設へ訪問し、演奏を披露したり（9月17日）、クリスマス会で日頃の成果を発表する（12月23日）。

<活動メンバー>

利用者（参加希望者には全員参加していただいた）

<総括>

活動回数：41回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4回	2回	4回	2回	3回	2回	3回	4回	2回	4回	6回	5回

今年度前半は、園外行事（敬老会の日訪問）に向けて『紅葉』『まっかな秋（ダンス）』を全体で集中的に練習した。又、歌を歌わない利用者もタンバリンや鈴などの楽器を手に持ち、一生懸命演奏しそれぞれの方法で音楽にかかわる機会とする事が出来た。更に、利用者の嗜好に応じて『愛しき日々（カラオケ）』の個別に練習、同行事内で披露し、これまでの全体活動に新たな表現方法を加える事ができた。

また、後半には Ipad のカラオケ機能を活用、利用者の嗜好に沿った歌謡曲を楽しめる様工夫し、利用者の歌いたい思いに応じる“個性に応じた”音楽クラブとして活動を展開する事ができ、新たな楽しみを発見する場とする事ができた。

一方で、個性を重視した活動に重きを置いたことにより、それらカラオケに傾倒した活動内容ともなり、皆で一斉に楽しむ場面が少なかった印象を受ける。これからは、全体としてバランスを保ち、個性を重視しつつ、誰もがより楽しめる計画的な運営を行っていきたい。

園芸クラブ

<活動方針>

- 1) 草花を育てることを通して、季節感・喜び・楽しみを得ること。
- 2) 草花を育てることを通して、心身の健康維持を図ること。
- 3) 活動を通して、地域との交流を図ること。

<活動内容>

- 四季の郷の中庭の芝生・花壇の整備と草花の栽培管理。
- 行事を利用して活動を展開。
- 草花を利用した楽しみ方を発見していく。
- 自然の観察・季節に応じた草花を見つけに散策へ出掛ける。
- 施設内にて、栽培している草花の紹介。

<実施回数>

4月・・・0回 5月・・・2回 6月・・・1回 7月・・・4回 8月・・・1回 9月・・・1回
 10月・・・0回 11月・・・2回 12月・・・1回 1月・・・1回 2月・・・2回 3月・・・3回

<総括>

活動内容としては、例年同様年間を通して花壇の整備、草花の栽培・管理を行った。活動回数はそれほど多くはなかったが、利用者が自然に触れることのできる活動に取り組みたのではないかと感じている。毎年恒例の夏祭りでのコスモスの苗の配布は、成長不良により実施することができなかった。一方で、秋祭りに向けて栽培したコスモスは、立派な花を咲かせ、雰囲気作りの一つとして四季の郷の中庭を鮮やかに彩ってくれた。

今年度は新たな取り組みとして、草花がより身近なものに感じられるようにと、毎月の代表的な花を掲示物として作成し、紹介を行った。また、天候に左右されずに活動を行えるように、利用者の創造力を活かせるようにとの発想から、フラワーアレンジメントを行った。自分の思うままに制作していくことで、個性に溢れた作品作りに取り組むことができた。その他に、体験クラブと合同でさつまいもとミニひまわりの栽培も行った。

年間を通して草花の栽培を行う為には、活動内容の工夫と草花の計画的な栽培方法の確立の必要性を感じた。今年度の反省を活かし、今後も充実した活動内容を提供していきたい。

絵画クラブ

<活動方針>

- (1) 絵画や造形（工芸、陶芸）を通して個々の得意とする分野で活動する。
- (2) 余暇を有意義に過すこと。
- (3) 愛護ギャラリーや、障害者芸術祭などのコンクールに作品を出展すること。

<活動内容>

- 絵画・紙工芸や陶芸、木工を実施していく。
- 活動時間以外の余暇時間などを有効に活用し個々の得意なものを活かして作品とする。
- 作品発表の機会の充実
 - ・ 『愛護ギャラリー展』、『障害者芸術祭』、『ベル 21 ほのぼの招待会』『その他の作品展』への作品の出展
 - ・ 定期的に園内に展示する。

(年間実績)

- 4月～6月 絵画、工芸に取り組む。
- 7月～8月 絵画、工芸、陶芸に取り組む。
- 9月～10月 秋祭り展示準備。
- 10月～12月 作品展に向け準備する。
- 1月～3月 絵画、工芸に取り組む。

<総括>

24年度は園内研修を経て、体験クラブと合同でひとつの目標が決まり、それに向かって長期間かけて利用者みんなの手による大きな作品を完成する事が出来ました。また、愛護ギャラリーへの出展にもつながりました。しかし、障害者芸術祭に関しては、開催日が園の秋祭りと重なった事から出展及び見学の機会を持つ事が出来ませんでした。来年度は、クラブの活動場所を会議室だけにとらわれず、中庭や近くの公園など外に出掛けてのスケッチなどにも力を入れていきたいと思えます。

体験クラブ

<活動方針>

- (1) 屋内外での活動を通して余暇を楽しむこと。
- (2) 地域交流を通して、人との関わりの幅を広げていくこと。
- (3) 所属枠を設けず、誰でも参加できる活動とすること。

<活動内容>

- 毎月1回実施し、事前に活動内容をポスター等で告示、参加者も同時に募る。

- 四季を感じる事ができるよう四季にあった活動も実施する。
- ボランティアの協力、参加を募る。
- 日頃体験できないものを実施する。

<総括>

体験クラブは、年間のテーマ『四季を感じる』『他クラブと連携を取りながら合同で活動を行っていく』で活動を行い、四季に沿って他クラブと協力しながら活動に取り組むことができた。制作活動から、地域交流、畑作り、クッキング、花火等の内容を行うことが出来、様々な体験が出来たように感じる。

今年度人気があった活動は制作活動（パネルアート）・地域交流（お楽しみ会）・花火・クッキング等であった。多くの利用者が参加する事ができ、1人1人良い表情をしていた。他クラブと協力する事で大きな作品を完成させる事ができ、利用者の皆様も喜んでいて、パネルアートでは秋祭りで飾ったり、愛護ギャラリーに出展したりする事が出来た。自分達が作った作品が飾られると「見て！私が作ったんだよ！」と嬉しそうな声が次々に聞かれ、心に残る活動になったと思われる。また、ボランティアの方と触れ合ったり、一緒に時間を過ごす事で一体感が生まれ、皆で盛り上がる事が出来た。

参加者は、昨年同様固定メンバーを決めず、園内に掲示し募る方法にて実施してきた。毎回参加する利用者も異なり、自由に参加できる活動として位置づける事ができていると感じる。

体験クラブは今年度で休止となってしまいが、毎月楽しく貴重な時間を過ごす事が出来たと感じる。

<活動内容>

月	活動内容	活動費
4月	ピアノコンサート	【施設負担】駐車場代、【個人負担】昼食代
5月	園芸：畑作り（園芸クラブと合同）	土・種・苗・ブロック等 計2,373円
6月	6月の花を見つけに行こう	
7月	花火	花火代 5,000円
8月	パネルアート（絵画クラブと合同）	画用紙代
9月	パネルアート（絵画クラブと合同）	
10月	パネルアート（絵画クラブと合同）	
11月	パネルアート（絵画クラブと合同）	
12月	クリスマスケーキを食べに行こう	個人負担。
1月	凧揚げ	凧代（3つ）計1,500円
2月	お菓子作り（バレンタイン）	計2,978円：1人248円※個人負担
3月	お楽しみ会（地域交流）	

家庭科クラブ

<活動方針>

- 1) おやつ作りや料理作りを通し、季節感を感じる事。
- 2) おやつ作りや料理作りを通し、楽しみを感じる事。
- 3) ミシン縫いや手縫いなどを行うことで、作品作りなどを楽しむ事。

<活動内容>

- 1) 季節に合ったおやつ作りや料理づくりを行なう。
- 2) おやつ作りや料理作り、裁縫に必要な材料は、利用者と共に購入していく。
- 3) 年に一度は、公民館を借りて、季節に合った料理作りを行う。
- 4) ミシン縫いや手縫いなどで、作品作りに取り組む。

<所属メンバー> : 利用者 活動の度に募集

<総括>

今年度も、おやつ作りや料理づくり、裁縫の活動を行った。年度始めに、参加を希望する利用者を集め、お菓子や料理作りの本を見ながら利用者の希望を聞き、おやつ作りや料理作りを通して季節感を感じる事が出来るように1年間の活動計画を立てた。裁縫は、直接店に購入しに行き、実際に見て作るものを決めた。

おやつ作りは、出来る限り、利用者に行なってもらうような見守り・支援を行なうことで、回数を重ねるにつれ、自然と役割分担が出来、利用者自らが進んで活動することが出来た。それに伴い、おやつ作りの楽しさ

や興味が増していったように感じる。今年度も、自分達が作った物を秋祭りで販売し、完売した事で、より自信にも繋がった様に思う。ただ、今回は、職員の人数の関係で、活動回数が少なくなってしまったのが残念であった。

公民館を利用した調理実習は、いつものおやつ作りとは異なり、実際に火を使う。自分の分は自分で作ってもらった事などを行った為、より充実したものになったように思う。作った物を、その場で食べるという事は、中々経験が出来ない事なので、良い機会になっていると感じている。

裁縫は、作品が出来、秋祭りや愛護ギャラリー等の作品展に展示した。実際に完成した物を見て、自信を持ち、次への意欲に繋がった。自分の物も作れ、実際に使用した事も良かったと思う。今年度も、作った作品を販売することができた。

毎月の活動を募集形式にしている。募集の紙を作成したことで、年々利用者の参加が増えている。

元気クラブ

<活動方針>

- (1) 散歩を通じて季節を感じる事。
- (2) 散歩をする事で楽しみを感じる事。
- (3) 園外に行く事で、心身共にリフレッシュすること。

<活動内容>

- 車で、公園などに行き、散歩を行う。
- 買い物に行く目的を持ち、散歩を行う。

<所属メンバー> : 利用者12名

<総括>

毎週活動を行う事が出来た。少人数ずつを数回に分けて散歩を行い、散歩を通じて、季節を感じたり楽しみを感じる事が出来、心身ともにリフレッシュする事ができるように行った。始めは、園から出て散歩に行く事が多かったが、車で、公園まで行き散歩をする事が出来るようになった為、活動の場が広がった。参加される利用者も、各々に、散歩している事を楽しんでいる様子が窺えた。活動内容の買い物に行く事は、今年度も、達成されなかったが、毎週活動がある為、グループ分けや取り組みが出来る活動にしていきたい。

(8) 年間行事

四季の郷での生活が単調にならず、潤いのある生活を送ることができるよう、年間を通して様々な行事を企画してきた。利用者の状態も様々なので、より個人の希望や要望を生かせるように、全体での行事以外にも小グループでの外出や活動ができるような配慮をした。

また一昨年度の窒息事故を受けて、行事など特別食の提供や見守り方法、さらには計画段階から十分に意識して準備を進めるよう見直しを行った。

平成24年度は、以下のような行事を行った。

【全体行事】

- ① 夏祭り…8月4日(土)
ヴィラ東山苑(老人施設)との共催で夏祭りを開催。地域の夏祭りとして定着してきている。
- ② 春の親子遠足…6月3日(日)
保護者との交流も目的に、豊橋総合動植物公園へ出掛けた。
- ③ 秋祭り…11月23日(金)
保護者会主催の「バザー」と同時に実施。地元の自治会長さんに一日施設長を委嘱するなど、地域住民の皆さんとの交流を深めた。
- ④ クリスマス会…12月23日(日)
気賀高校吹奏楽部の演奏会など、保護者や関係者の皆さんと、楽しい一日を過ごした。

【他団体主催行事】

- ① 親子レクリエーション…8月より夜勤3名体制に移行したこと等で行事運営の職員数確保が難しくなり、保護者会と相談し今年度は中止とした。
- ② その他

わかふじスポーツ大会（9月2日“フライングディスクの部”／県障害者スポーツ協）、オレンジマラソン大会（10月20日／県障害者スポーツ協）、友愛広場（19月23日／市社協）愛護ギャラリー展見学（12月18日／県知協）等に参加した。

【グループ活動】

今年度も、課業班活動の中に組み入れ実施した。所属利用者人数に応じた予算配分と実施枠制をとって実施した。実施内容の報告は、前項の各課業班報告の通り。

【その他の行事等】

- ① 誕生会…毎月実施。レクリエーションを実施したり、誕生者にケーキ選びをしてもらうなど、工夫した。
- ② 季節行事…花見、端午の節句、七夕、お月見、新年会、節分、ひな祭り等の伝統的な行事も大切に実施した。
- ③ 買い物外出…土・日曜日を利用して、買い物外出を実施したが、職員人数の関係で計画的に実施できなかった。
- ④ 一泊外出…利用者・保護者の要望（経費全額利用者負担）を元に、計6グループ（内1グループは日帰り）で実施した。実施内容は以下の通り。

月	外出班	利用者／職員人数	行き先と利用者1人あたりの金額
6	A班一泊	6/19・20	<知多半島周辺>15,950円
7	B班一泊	7/9・10	<三重県松坂市方面>15,384円
9	C班一泊	9/25・26	<知多半島方面>13,816円
10	D班日帰り	10/10	<掛川方面(マイクロバス)>4,875円
11	E班一泊	11/12・13	<箱根方面>22,084円
1	F班一泊	1/29・30	<焼津方面>18,191円
2	G班一泊	2/8・9	<伊良湖方面>16,992円

(9) 利用者自治会活動

利用者ニーズを反映させる場として、役員さんを中心に自治会活動を実施した。「自分達らしい暮らし」に対して自ら意思表示したり、選択できる機会を大事にした。また、オイスカ高校の緑化運動（ベルマーク）を通じた社会貢献活動へ参加するなど、社会とのつながりも大切にした。

自治会活動の成果としては、例えば、自治会で挙がったメニューの要望を行事担当者や栄養士へ伝え、各行事に反映してもらった。皆さんの喜ぶ多くなったのと同時に、積極的に参加する姿が増えてきている。

実施内容は以下の通り。

月	内容	参加利用者	備考
4	利用者自治会説明会	希望者	新年度役員募集等
5	役員会	役員	会長・副会長の選出等 行事・選択食・変わり湯の要望等
6	役員会	役員	選択食・変わり湯の要望等
7	役員会	役員	行事・選択食・変わり湯の要望等
8	役員会	役員	選択食・変わり湯の要望等
9	親睦会(役員会)	役員	選択食・変わり湯の要望等
10	役員会	役員	行事・選択食・変わり湯の要望等
11	役員会	役員	行事・選択食・変わり湯の要望等
1	初詣(役員会)	役員	利用者代表として初詣へ
	ベルマーク訪問(役員会)	役員	オイスカ高校へ渡す
2	役員会	役員	自治会総会話し合い 選択食・変わり湯の要望等
3	利用者自治会総会	利用者全員	一年間の活動報告等

3. 地域・防災

(1) 在宅障害者の受け入れ

今年度も、積極的に短期入所（ショートステイ）及び日中一時支援事業利用者の受け入れを行った。それぞれの事業報告については別紙。

(2) ボランティアの受け入れ

今年度もボランティア担当職員を中心に、ボランティアの受け入れを積極的に進めてきた。地域との“橋渡し”機能を持つボランティアの受け入れは、利用者の生活・支援が地域に広がる機会となっている。行事等での手伝い等、ボランティアが支援の補完的な役割を担っている現状があることも否めない。

(3) 実習生の受け入れ

今年度も、積極的に実習生の受け入れを行ってきた。受け入れの実績は以下の通り。

実習生受け入れ実績（平成24年4月～平成25年3月／実習受け入れ順）

所属等	目的	実習期間	実習日数	受入人数
聖隷クリストファー大学	社会福祉士資格取得	5月19日～31日・6月18日～30日	23	1
静岡県立大学短期大学部	保育実習	6月4日～6月16日	12	2
浜松学院大学	保育実習	6月18日～6月30日	12	1
浜松学院大学	保育実習	7月9日～7月21日	12	2
聖心女子専門学校	保育実習	7月24日～8月5日	11	2
静岡県立大学短期大学部	社会福祉士資格取得	8月1日～8月21日	18	2
浜松学院大学短期大学部	保育実習	8月20日～9月2日	12	2
浜松学院大学短期大学部	保育実習	9月3日～9月16日	12	2
静岡県立大学短期大学部	保育実習	10月9日～10月22日	12	2
東海大学短期大学部	教員・保育士免許状取得	11月12日～11月23日	12	2
東海福祉専門学校	希望実習	12月17日～12月21日	5	1
東海福祉専門学校	希望実習	12月23日～12月28日	5	1
東海福祉専門学校	介護福祉士資格取得	1月21日～2月1日	10	2
浜松学院大学短期大学部	保育実習	2月12日～2月23日	12	2
東海福祉専門学校	希望実習	3月11日～3月15日	5	1
静岡県立大学短期大学部	社会福祉士資格取得	3月18日～3月23日	6	2
浜松医療福祉専門学校	体験実習(歯科衛生士)	10月3日～11月7日の中	計9	計19
実習受け入れのべ日数			188日	
実習受け入れのべ人数				27名

(4) 防災訓練等

今年度も、万が一に備えて毎月計画的に防災訓練を実施した。その総括は以下の通りである。

○初期消火や防災盤の操作方法等の基礎訓練については、新任職員の習得研修として確実に実施できた。一方で、職員構成的に経験の浅い職員数割合が増えている現状があり、変則勤務の中での訓練や防災知識・技術の習得方法に工夫を感じた。

○職員の判断力を養うため、年2回の抜き打ち訓練を引き続き実施したが、基礎的な訓練部分の積み重ねが必要に思われた。

○地震対策として、2月の防災講習会でHUG訓練を実施した。初めて体験する職員が多く、関心を持って参加してくれていた。

●一昨年度3月に発生した東日本大震災を受け、法人レベルでの対策としてマニュアルの作成や安否確認システムの導入、必要物品の用意など準備を進めきた。それらを踏まえ、今年度については法人全体での合同訓練や安否コールの定期訓練等を実施した。

来年度は、国より南海トラフ大地震の被害想定公表があったことを受け、最悪を想定した準備をさらに進めていきたい。

防災訓練実施報告 ※年間防災訓練計画に基づき実施しました。

実施月日	訓練実施内容
4/11(水)	日中の突発的地震を想定しての避難訓練を実施
5/16(水)	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施。消火器による消火訓練を実施 新職員への防災設備取り扱い訓練と初期消火手順訓練を実施
6/8(金)	法人合同防災訓練を実施
7/12(木)	夜間火災を想定しての避難訓練を実施 職員非常招集訓練を実施
8/8(水)	平日の日中火災を想定しての避難訓練を実施
9/4(木)	東海地震注意情報・警戒宣言発令を想定しての総合防災訓練を実施 非常食の喫食と実技訓練を実施
10/124(水)	平日の日中火災を想定しての抜き打ち避難訓練。
11/2(金)	「社会福祉入所施設防災の日」として、総合防災訓練を実施 地震及び火災発生を想定しての避難訓練・情報伝達訓練・応急対策訓練を実施
12/12(水)	抜き打ち避難訓練を実施
1/9(水)	夜間火災を想定しての避難訓練
2/12(水)	防災講習会を開催。『HUG訓練』
3/11(月)	抜き打ち避難訓練を実施

4. 保護者会との連携

(1) はじめに

施設の運営を進めて行く上で、保護者の協力を得るのはとても重要なことである。四季の郷では今年度も、保護者会担当職員を2名選任し、保護者会関連の会議等に出席して、施設側との連絡及び調整の役割を果たしてきた。今年度も、利用者と保護者が良好な家族関係を維持してもらえるようにとの思いから、家庭実習を夏季と冬季の2回実施した。

保護者会総会に出席していただける保護者の人数は増加傾向にあるが、家庭実習期間の帰省受け入れは、日数的にも様々な要因から減少傾向にある。保護者や家族とのつながりを強める取り組みも工夫しながら、引き続き、より一層保護者との交わりを深めていきたいと思う。

(2) 家庭実習実施状況

今年度は夏季と冬季の2回、家庭実習期間の設定を行った。以下が、その期間と期間中に帰省した利用者的人数。

○夏季家庭実習 8月11日(土)～8月16日(木) 5日間 利用者23名帰省

○冬季家庭実習 12月29日(土)～1月4日(金) 8日間 利用者27名帰省

家庭実習の実施にあたっては、今年度もあらかじめ文書で保護者に通知し、都合を確認した上で受け入れて頂いた。帰省ができて、年々短期間になっていることや帰省できない人が少しずつ増加している傾向が見られた。特に男性利用者の帰省が減っている状況は顕著であった。家庭実習で利用者が帰宅する際には、各ケース担当職員が担当利用者の近況を記入した「家庭実習記録表」を渡して、保護者に施設生活の状況を知らせていただくとともに、保護者には、その記録表に家庭での様子や要望等を記入・提出していただき、保護者との連携を図るようにしてきた。尚、帰省ができなかった利用者の保護者には、家庭実習記録表を送付した。

更に、施設全体のことを保護者の皆さんに知っていただくために、施設内新聞「さんさんタイムズ」を発行した。行事や職員の紹介等も掲載してきたため、利用者・保護者から大変好評であった。

(3) 行事への参加・協力

今年度の四季の郷年間行事の中で、保護者会との協力によって実施した行事は以下の通り。

○親子レクリエーション(保護者会主催行事) …施設側の事情のため今年度は中止

○春の親子遠足(保護者会協力行事) …6月3日(日) 参加保護者31名

○秋祭り・バザー(保護者会共催行事) …11月23日(金) 参加保護者21名

○クリスマス会(保護者会協力行事) …12月23日(日) 参加保護者26名